

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告の方法	当社のホームページに掲載する https://www.ferrotec.co.jp/
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 スタンダード

・株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

年間IRカレンダー

第4 四半期			第1 四半期			第2 四半期			第3 四半期		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
第3四半期開示			本決算	決算発表 決算説明会	株主総会	第1四半期開示	第2四半期決算	第2四半期決算発表 第2四半期決算説明会			

Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

〒103-0027

東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル5階

TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848

URL <https://www.ferrotec.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



森林に配慮して適切に管理された
森林認証紙を使用しています。

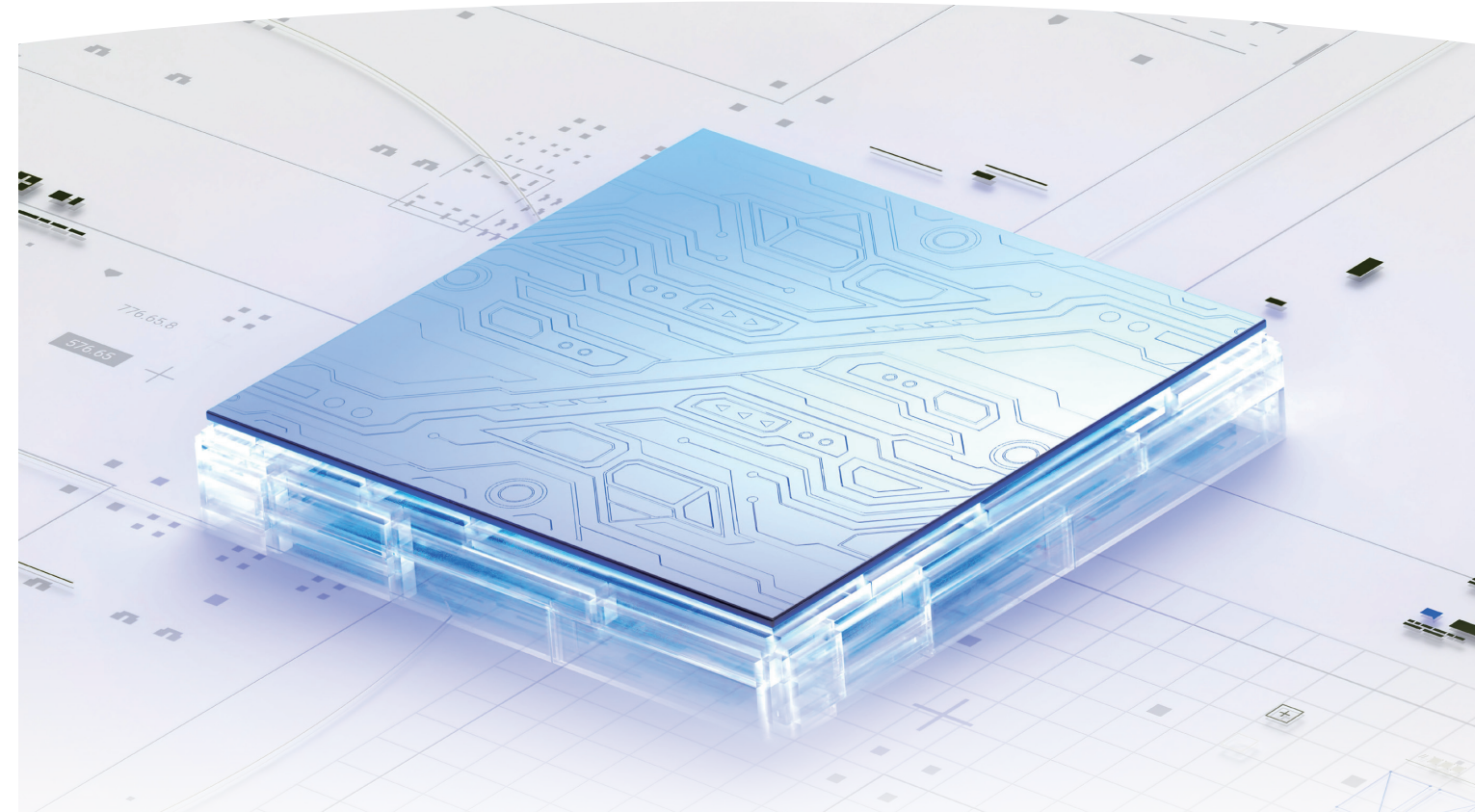


環境に配慮した植物油インキを
使用しています。

第43期 第2四半期決算報告

2022年4月1日～2022年9月30日

証券コード：6890



Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

株主の皆さまへ



代表取締役社長
グループCEO
賀 賢漢

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により、影響を受けられた皆さまにお見舞い申し上げます。ここに第43期第2四半期決算報告をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当社グループはこの2022年5月に当初の中期経営計画(22/3月期から24/3月期)の2年度目以降の目標数値等を修正し、より力強く成長すべく見直しを行った「中期経営計画アップデート版」を公表し、力強い成長を支えるため積極的な増産投資、事業投資を実施してまいりました。この上半期も中国での増産投資に加え、日本、マレーシアでの量産拠点づくりも着実に進めてまいりました。また、本期間中には持分法適用会社であった大泉製作所、東洋刃物の公開買付けを無事終え子会社化いたしました。

本第2四半期決算は、コロナ禍やロシアのウクライナ侵襲影響による燃料、原材料高騰などが続く中、高水準な半導体設備投資の恩恵を受け、当社グループは売上高、利益を着実に伸ばすことができました。

これら施策を進めてこられましたのも、ひとえに株主の皆さまのご理解、ご支援の賜物であると感謝いたしております。

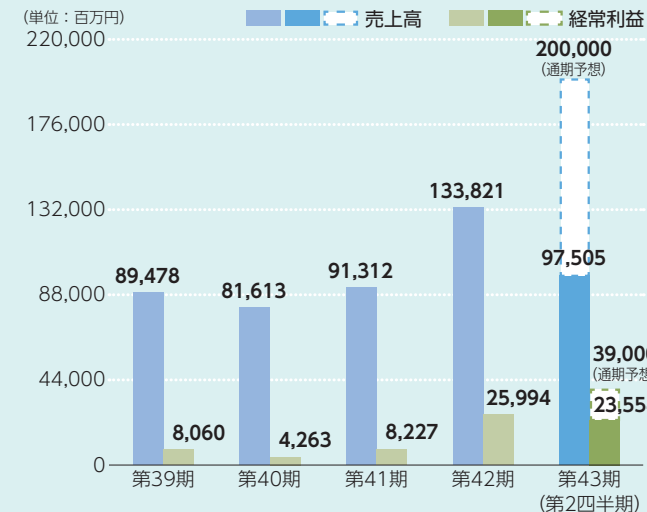
当社グループはこれからも事業成長を追求し、株主の皆さまにとって「成長する楽しみが持てる企業」であり続けるよう努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

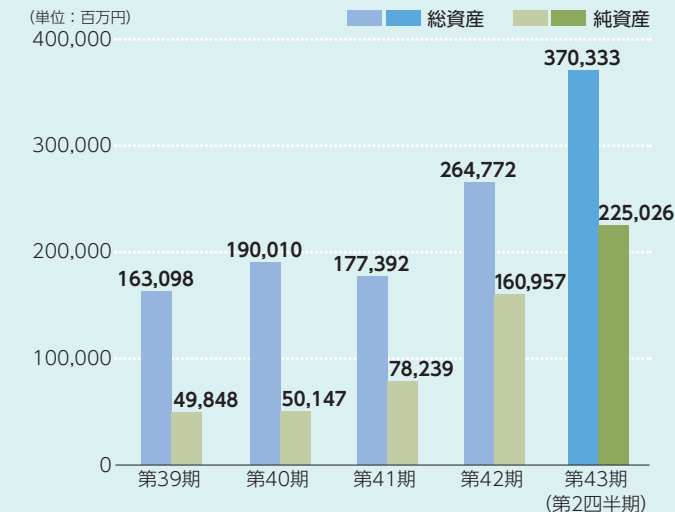
2022年12月吉日

財務ハイライト

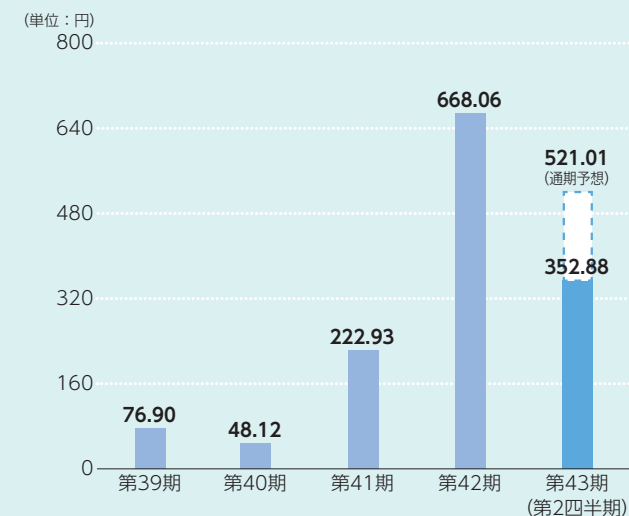
売上高／経常利益



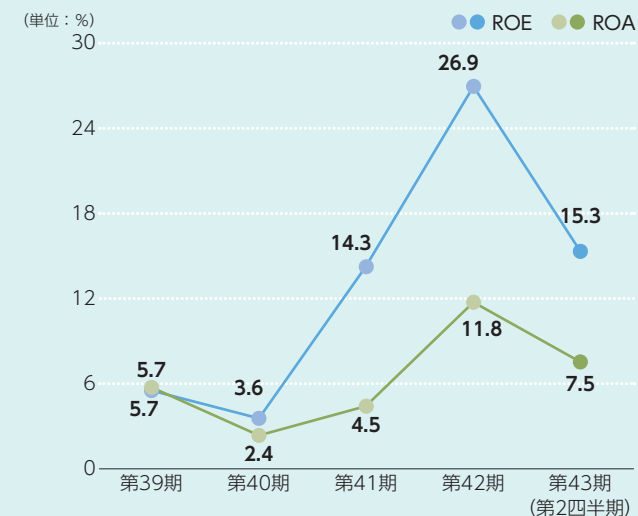
総資産／純資産



1株当たり当期(四半期)純利益



ROE(自己資本当期純利益率)／ROA(総資産経常利益率)



※第43期については、通期業績予想数値をベースにしています。

新任取締役のご紹介

この6月の株主総会で3名の新任取締役が選任されました。積極的な成長を志向する当社をそれぞれの知見、持ち味でリードしてほしいと思います。今回3名の新任取締役の紹介とともに、各々の担当分野を中心として当社現状や今後の課題、株主の皆さまへのメッセージ等を率直に語っていただきました。



取締役 執行役員 事業管理・人事担当
兼事業管理統括室長
並木 美代子

略歴、当社における地位、担当

1996年1月 当社入社
2002年1月 当社経営管理本部経営管理部長
2011年6月 当社執行役員事業管理部長兼人事部長
2017年4月 当社執行役員管理統括室長兼事業管理部長
2019年7月 当社執行役員事業管理統括室長兼事業管理部長
2022年6月 当社取締役執行役員事業管理・人事担当兼事業管理統括室長(現任)

会社の持続的な成長実現のために、 「優秀な人材の確保」は最重要課題

当社は一言で言うと、経営トップと従業員との距離が近い会社と言えます。経営の状況や方針について、朝礼などを通じて、トップから直接従業員に説明する場を設けており、この経営目標の伝達の速さは、当社の特長であり、企業競争力でもある「スピード経営」の源泉です。

私の担当は、子会社などグループ会社の管理、購買・物流、情報システム、人事と広範囲に渡ります。数ある課題の中でも、特に重要なのは、事業規模の拡大に応じた優秀な人材の採用(確保)です。当社は、社長が外国籍であり、私以外にも社外取締役に1名女性がいるように、経営層からダイバーシティが進む、「多様性」を許容する会社です。会社として、従業員に対する十分なインセンティブの確保も意識していますが、「ワークライフバランス」の観点では、女性従業員の育児休暇や時短制度も奨励し、最近では男性従業員の育児休暇取得も進む環境になりつつあります。各自が多様性を理解し、相互をサポートしあえる環境を整備することで、性別や国籍にかかわらず、優秀な人材が持続的に活躍できる場を提供していきたいと思っています。

また、当社は事業領域の拡大や会社の成長を目指し、M&Aも積極的に進めています。カルチャーの異なる会社同士が融合し、一つの方向を向いてシナジーを最大化するためには、経営方針を正しく伝達し、理解し合い、行動することが不可欠です。グループ経営の強化という観点で、この取り組みも今後益々注力していきます。

最後に、調達における課題ですが、日本、中国、マレーシア、欧米も含め、世界中の生産拠点において、生産能力の増強を進める上で重要なのが「安定的な材料の調達」です。半導体の業界では新たな材料の顧客認定にも長い期間を要するのが通例です。このため、開発、製造、営業、品質保証部門と連携し、如何に材料を安定的に供給できるかという日々の改善や工夫が不可欠です。地球環境にやさしい「グリーン調達」の徹底も含め、調達部門で注力すべき課題も山積みです。

—株主の皆さまへのメッセージをお願いします。—

当社は中長期での会社成長を目指していきます。このため、サステナブルの観点でも、特にESGのS(社会)にあたる人事・人材に対する取り組みが極めて重要です。今後は、これらの重要課題をKPI化していくことで、株主さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの当社への理解が進むことも期待しておりますので、当社へのご理解とご支援を改めてお願いいたします。



取締役 執行役員 技術・製造担当兼
製造統括室長
大石 純一郎

略歴、当社における地位、担当

1988年4月 日本電気株式会社入社
2014年1月 日東紡績株式会社入社
2016年10月 当社入社 製造本部長
2017年4月 当社執行役員製造統括室長
2022年6月 当社取締役執行役員技術・製造担当兼製造統括室長(現任)

用語説明

- ※1 ERP: 企業の財務や人事、設備、情報などの経営資源を統合的に管理・配分し、業務の効率化や経営の全体最適を目指す手法で、そのために導入される業務ソフトウェア
- ※2 MES: 製造工程の把握や管理、作業への指示や支援などを行う「製造実行システム」
- ※3 D X: デジタルトランスフォーメーションの略称で、デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーション

モノづくりにおけるDX化の推進で、 今後も製造現場の生産性改善、 および品質向上に臨む

当社は躍動感に溢れ、創造と革新を推進する社風の会社です。電子デバイス、半導体関連の材料技術、加工技術、組立技術、デバイス応用製品の開発に強みを持っています。この数年間で、中国の多くの生産拠点では、ERP*1、MES*2をはじめ様々なシステムの導入と活用が進み、生産の見える化と効率化、および品質の向上が実現しています。製造現場ではAI活用、ロボットの積極導入を行い、最先端の工場構築を行っています。一方、日本の各生産拠点では、システム投資、自動化投資に遅れがあり、今後は新拠点も増加していくことから、これらの導入と活用を加速させることが重要な課題となっています。

またSDGsに関して、ステークホルダーの関心が高まる中、当社は「使う責任、作る責任」を意識し、「製造技術」「品質保証」という観点からも製造プロセス全体を改善していく必要があります。このため、モノづくりにおけるDX*3化を推進し、生産性や歩留まりの改善を通じて、ムダの削減による廃棄材料、使用エネルギーの低減などに取り組んでいます。具体的には本社の生産技術部員、品質保証部員が中国に滞在し、現場でモノづくりのプロセスに目を光らせ、併せてガイドラインに沿った「グリーン調達」の指導も実施しています。

—株主の皆さまへのメッセージをお願いします。—

当社は中長期で高い事業成長を目標に掲げていることから、経営上の最大の課題はグローバルで優秀な人材を採用し、育成していくことにあります。この点を重視した上で、世界中の開発・生産拠点の現場改革、品質向上、および新しい製品の投入を進めてまいりますので、株主の皆さまの変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

特集1 新任取締役のご紹介

積極投資を展開中、事業成長・利益成長へ繋げる運営により「会社の成長」を実現

当社は米国企業の日本法人を起源とし、中国を主要な生産拠点として発展してきた、独自の歴史を持つ、極めてクロスボーダーな会社であり、また、会社のDNAとして「会社の成長」を追求し、多様な事業を展開している、特徴ある会社です。私は財務経理・企画を担当しており、「会社の成長」の実現に向けて、各事業部門における積極的な投資や事業展開を計画策定や財務面で支援するとともに、グループとして適切な経営計画・財務計画を策定し、ステークホルダーの皆さまに当社について理解いただける説明をすることが極めて大事だと考えています。

2024年3月期を最終年度とする中期経営計画では、半導体マーケットの成長や当社の財務基盤の強化を受けて、「徹底的に成長を追求」し、M&Aを含めた積極的な投資を展開しています。当期利益の重視、投資リターン・ROIC管理を継続し、積極投資を事業成長・利益成長の実現に繋げる運営が重要です。財務基盤の強化は進展していますが、引き続き、投資と財務の適切なバランスの確保も重要です。

当社は急速に事業規模が拡大し、各事業の業界内ポジションが向上していますが、量的な拡大だけでなく、研究・開発機能を強化、デジタル化・自動化投資を展開するなど、質的な強化も進めています。マレーシア進出により地理的にも拡大しています。内部管理を含めた、人材・組織体制の拡充を、事業成長に合わせて進めることも課題です。

一株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社は、非常に多様な事業を保有しており、その意味では株主の皆さまにとって、一見分り難い会社かもしれません。そのような中でも、日頃から当社にご理解とご支援をいただいております。心より御礼申し上げます。今後も会社の成長、利益目標の実現に取り組み、株主還元も含め、株主の皆さまの期待に応えられるよう精進しますので、引き続きご支援の程、お願いいたします。



取締役 執行役員 財務経理・企画担当
兼財務経理統括室長

武田 明

略歴、当社における地位、担当

- 1989年 4月 株式会社三菱銀行(現株式会社三菱UFJ銀行) 入行
- 2015年 7月 同行国際審査部副部長
- 2019年 4月 同行より当社へ出向、財務経理統括室財務部長
- 2019年 8月 当社入社、財務経理統括室財務部長
- 2020年 6月 当社執行役員財務経理統括室長兼財務部長
- 2022年 6月 当社取締役執行役員財務経理・企画担当兼財務経理統括室長(現任)

特集2

持続的成長の可能性の追求

中国市場における事業基盤のさらなる強化

中国 常山地区の増産投資(第二期)が竣工、生産開始

当社は、中国常山地区(浙江省衢州(くしゅう)市常山県)において集中的に増産投資を行っておりますが、この7月に第二期の増産投資案件である「金属加工」「石英製品」「サーモジュール」の3製品の工場が竣工し、生産を開始いたしました。

常山地区は当社製造拠点の中心である杭州市と同じ浙江省に位置し、近年杭州の工場が手狭となった際に、常山地区に最新鋭の量産工場を建設することにより、製品の供給能力と収益性の向上に貢献してきました。これより上記3製品のさらなる事業拡大を図ってまいります。

また、今後も同地区では半導体材料製品のサプライヤーとしてのプレゼンスを高めるべく、「セラミックス」「シリコンパーツ」「CVD-SiC」の増産投資(第三期)を進めてまいります。



7月竣工式の様子



パワー半導体基板の第3工場建設を決定

パワー半導体事業が急速な拡大を遂げる中、当社事業拠点もあり、かつ需要地である中国西部の自動車関連産業集中地域への交通の便も良い四川省内江市で、パワー半導体基板の新工場建設を決定いたしました。この新工場建設により、成長著しいパワー半導体市場の需要取り込みに注力していきます。

▶新工場概要

- ① 所在地 中国四川省内江市内江経済技術開発区内
- ② 操業開始予定 2024年1月



中国進出30周年(1992-2022) 30th

当社は1992年より中国に量産拠点を築くため杭州市に工場を設立して以来、本年で30年となりました。

この5月に中国進出30周年記念行事を実施し、5人からスタートした当時を懐かしみながら、これまでの苦労をねぎらうとともに、初心を忘れず頑張るよう決意をあらたにしました。



日本に回帰して日本国内を強化

国内拠点の強化着手の背景・狙いなど

当社は、現在売上の約8割は米国を中心とした海外で、製造も8割は中国の工場で行っています。一方、国内では長きに亘って半導体市場が低迷を続けていましたが、半導体は今後もニーズが高く、国策としても注目される成長分野です。米中摩擦の影響もあり世界的に半導体の調達が難しくなる中、国内で大量生産をすることで当社自身も日本のお客様から要求される納期を遵守できるようになります。また大きくは、日本における半導体製造領域のサプライチェーン構築を支え、結果として社会や経済を支えていくことにも寄与します。熊本をはじめとする九州を半導体関連企業の集積地にするシリコンアイランド構想も動き始めていますが、そこにも参画して市場拡大に貢献できるものと考えています。

国内回帰・国内強化のポイント

- POINT 1 国内半導体関連の「市場」「基礎技術」「人材」の取り込み
- POINT 2 国内のお客様から要求される納期の遵守
- POINT 3 国内における半導体製造領域のサプライチェーン構築を支え、社会や経済の持続的発展に寄与

IR News 当社株式が「JPX 日経インデックス 400」構成銘柄に選定

2022年8月、当社株式が株価指数「JPX 日経インデックス 400」の構成銘柄として新たに選定されました。

「JPX 日経400」は、(株)JPX総研および(株)日本経済新聞社が共同で算出を行っている株価指数の一つです。資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、投資者にとって投資魅力の高い会社で構成される新しい株価指数とされ、400社が選定されています。

今後も多くの投資家の皆さまのご期待に添えるよう、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。



● 石川第2工場が操業開始

(株)フェローテックマテリアルテクノロジーズ

世界的な半導体需要の高まりに合わせて需要が旺盛な特殊セラミックスを製造する石川第2工場が、2022年11月より操業を開始しました。最近では、医療・検査・分析機器などの成長分野でも(株)フェローテックマテリアルテクノロジーズのセラミックスが採用されており、非半導体分野での需要拡大も見込まれます。



● 東洋刃物株式会社、株式会社大泉製作所を子会社化

(株)フェローテックホールディングス

今般の国内回帰策の一環として当社では、各種機械刃物の製造および販売を主な事業とする東洋刃物と、電子部品の製造および販売を主な事業とする大泉製作所を、2022年7月にそれぞれ子会社化しました。いずれも当社と密接に関連する事業を行う会社です。当社としては、日本の優れた技術や人材をこれからもっと当社の中に取り入れつつ、日本でかつて行われていた「大量生産」の体制を取り戻し、国内へのデリバリー体制の強化を図ります。また同時に、欧米で得た優れた技術力・中国工場での生産力など、世界中で培ったノウハウを用い、日本で優位にビジネスを展開していくことを目指します。

● 熊本県に半導体関連新工場の建設を決定

(株)フェローテックホールディングス

世界最大の半導体受託製造企業である台湾積体電路製造 (TSMC) の工場誘致も決まり、半導体デバイス・装置メーカーが誘致拠点となる熊本県に集まっています。当社では、TSMCの工場が建設される場所から車で10分程度に位置する熊本県大津町と立地協定を締結し、半導体関連部材の新拠点建設を決定しました。2023年に着工し、TSMCの工場が稼働開始する2024年の操業開始を予定しています。また地元を中心に100人の雇用も計画しています。



有力企業進出が相次ぐ東南アジア地域の深耕 マレーシアに新工場を建設

「Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.」の設立

近年、東南アジア地域への半導体関連の有力企業進出が相次いでいます。当社はマレーシア、シンガポールに販売会社を設立し顧客開拓を進めてきましたが、同地区の顧客企業あるいは潜在顧客からの製造拠点設立への期待を寄せられたこともあり、同地区に製造拠点を設けることで、より顧客ニーズを取り込み事業拡大が可能であると判断しました。

当社では顧客支援体制づくりに加え、半導体製造装置分野における先端材料製造・組立の世界的リーダーとしての地位を確立するための能力を獲得する絶好の機会であると考えています。



▶新工場概要

- | | |
|----------|--|
| ① 名称 | Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd. (FTMM) |
| ② 所在地 | マレーシア ケダ州 クリム・ハイテクパーク内 |
| ③ 事業内容 | 金属加工、ロボット組立、石英・セラミックス加工製造等 |
| ④ 建屋総床面積 | 約800,000平方フィート (約80,000㎡) |



Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd. (FTMM) (マレーシア ケダ州 クリム・ハイテクパーク内：2023年9月操業開始予定)

トピックス 1

マレーシア・ケダにて新工場の起工式を開催

2022年8月、当社はケダ州クリム・ハイテクパークにおいて、マレーシア投資開発庁(MIDA)の賛助による新工場の建設開始を記念し、起工式を開催しました。式典は州政府幹部、市議会議長、MIDA幹部等の多くの来賓を迎え実施されました。FTMMの宮永社長は地域顧客企業の成長を支えるため生産能力を高めていくことを表明いたしました。



当社式典列席者、左から並木取締役、西村顧問、FTMM人事部 Ai Leng、賀社長、宮永取締役兼FTMM社長、Anzhi He FTMM常務

トピックス 2

マレーシア首相が東京で開催した懇親会に参加

2022年5月に帝国ホテルにおいて、マレーシア首相による日本企業経営者を招いての懇親会が開催され、当社も招待を受け列席いたしました。当社のマレーシアへの投資決定に対し、首相から直接感謝の言葉を賜りました。



マレーシア首相 ダト・スリ イスマエル・サブリー・ヤーコブ閣下と山村副社長

FTMMにおける主な生産機能

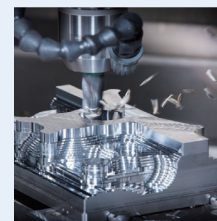
■ ロボット組立

金属加工で製作した部品を使用した、ウエーハ搬送ロボットなどユニット製品の組立事業。クリーンルーム内での組立・検査にも対応しています。



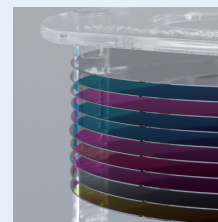
■ 金属加工

真空シール製造で培った金属加工技術を用いた、真空チャンバー等のステンレスやアルミ製品の受託加工事業。精密洗浄・表面処理等のサービスも対応しています。



■ 石英加工製造

超高純度のシリカガラスからなる石英製品の製造。半導体製造分野でウエーハの薄膜生成や拡散プロセス、その他搬送、洗浄工程などの治具、消耗材として使用されます。

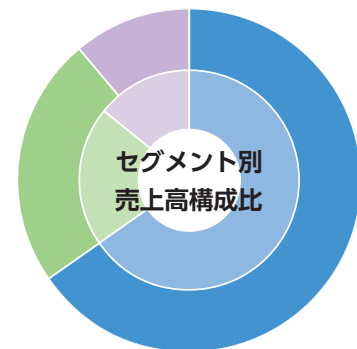


■ セラミックス加工製造

半導体製造(ウエーハ製造・処理・組立・検査)の各プロセスに使用される部品や一般産業機械分野で使用される耐摩耗・耐熱・耐薬品用部材であるファイナセラミックスの製造。



セグメント別事業概況



当社は、製品用途の類似性と販売先業種により区分し「半導体等装置関連事業」「電子デバイス事業」の2事業を報告セグメントとしております。

半導体等装置関連事業

昨今のコロナ禍をきっかけに、リモートワークやWEB会議が定着するなどWEB通信量が増大傾向にある中、データセンターや通信向けの需要は高水準で推移しました。半導体関連の増産投資による製造装置の需要も堅調であり、当社の真空シールおよび各種製造装置向け金属加工製品、半導体製造プロセスに使用されるマテリアル製品(石英製品・セラミックス製品・シリコンパーツ等)は、高水準な設備投資と設備稼働率の恩恵を受け売上を大きく伸ばしました。

	第42期 第2四半期 (内周)	第43期 第2四半期 (外周)
売上高	637億円	637億円
営業利益	117億円	117億円



セラミックス製品

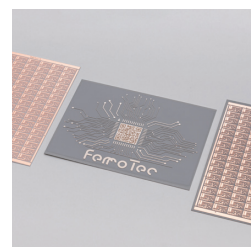


真空シール

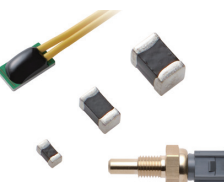
電子デバイス事業

主力のサーモモジュールは、5G用の移動通信システム機器向けや半導体分野向け、医療分野向けなどで販売を伸ばしました。パワー半導体用基板は、AMB基板が中国のEV車載向け出荷が軌道に乗り売上を大きく伸ばすことができました。広範な用途に使用されるDCB基板の販売もIGBT向けを中心に好調を維持し、全体でも売上を大きく伸ばしました。また、第2四半期より連結化したセンサの売上、利益が新たに加わりました。

	第42期 第2四半期 (内周)	第43期 第2四半期 (外周)
売上高	230億円	230億円
営業利益	53億円	53億円



AMB基板



センサ(サーミスタ)

※1 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

各セグメントの売上高は、外部顧客に対する数値を記載しております。

※2 第43期第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含めていた米国子会社における受託製造事業及び成膜装置事業は、経営管理区分の見直しにより「半導体等装置関連事業」の区分に含めて記載する方法に変更しております。なお、第42期第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

連結財務諸表(要約)

決算情報についての最新情報、詳細につきましては当社のIRサイトをご覧ください。
<https://www.ferrotec.co.jp/ir/>



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2022年9月30日現在	前期 2022年3月31日現在
資産の部		
流動資産	190,942	133,414
固定資産	179,390	131,358
有形固定資産	122,616	84,083
無形固定資産	5,852	1,996
投資その他の資産	50,921	45,277
資産合計	370,333	264,772
負債の部		
流動負債	95,160	68,800
固定負債	50,145	35,014
負債合計	145,306	103,814
純資産の部		
株主資本	144,623	117,511
その他の包括利益累計額	30,708	13,511
新株予約権	43	45
非支配株主持分	49,651	29,888
純資産合計	225,026	160,957
負債純資産合計	370,333	264,772

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	前第2四半期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,988	6,369
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,783	△8,226
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,461	18,274
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,525	1,588
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	31,192	18,007
現金及び現金同等物の期首残高	52,579	30,202
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△0	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	83,770	48,210

※1 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※2 2022年3月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年3月期第2四半期に係る各数値について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	前第2四半期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
売上高	97,505	59,826
売上原価	62,967	37,587
売上総利益	34,538	22,238
販売費及び一般管理費	17,476	11,530
営業利益	17,061	10,708
営業外収益	7,380	2,283
営業外費用	888	523
経常利益	23,554	12,468
特別利益	822	9,339
特別損失	768	1,162
税金等調整前四半期純利益	23,608	20,645
法人税等	5,639	3,043
四半期純利益	17,968	17,602
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,989	345
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,979	17,257

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	前第2四半期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
四半期純利益	17,968	17,602
その他の包括利益	22,179	5,205
その他有価証券評価差額金	△153	174
為替換算調整勘定	18,043	3,609
退職給付に係る調整額	71	9
持分法適用会社に対する持分相当額	4,218	1,411
四半期包括利益	40,148	22,808
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,176	21,471
非支配株主に係る四半期包括利益	6,972	1,336

株式情報 / 会社情報 (2022年9月30日現在)

株式の状況

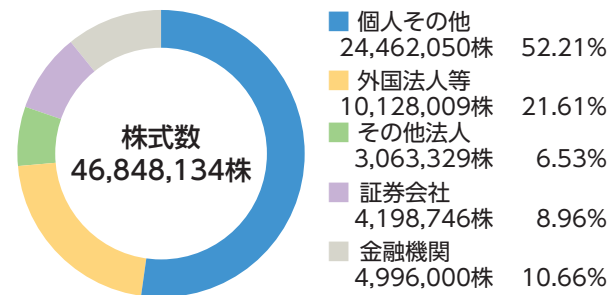
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	46,942,367株
株主数	41,843名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
上田八木短資株式会社	1,688,700	3.59
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,098,733	2.34
UBS AG LONDON ASIA EQUITIES	987,586	2.10
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	985,500	2.09
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	913,300	1.94
山村 章	853,200	1.81
日本証券金融株式会社	790,700	1.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	765,600	1.63
SMBC日興証券株式会社	634,900	1.35
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC	563,862	1.20

(注) 1. 当社は、自己株式94,233株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況



(注) 1. 自己株式94,233株は上記の円グラフ中の株式数に含まれておりません。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号	株式会社フェローテックホールディングス (英文表記) Ferrotec Holdings Corporation
設立	1980年9月27日
資本金	293億2,982万0,552円
株式公開	株式会社東京証券取引所 スタンダード 1996年10月18日(証券コード: 6890)
決算期	3月31日
従業員数	12,177名(連結)

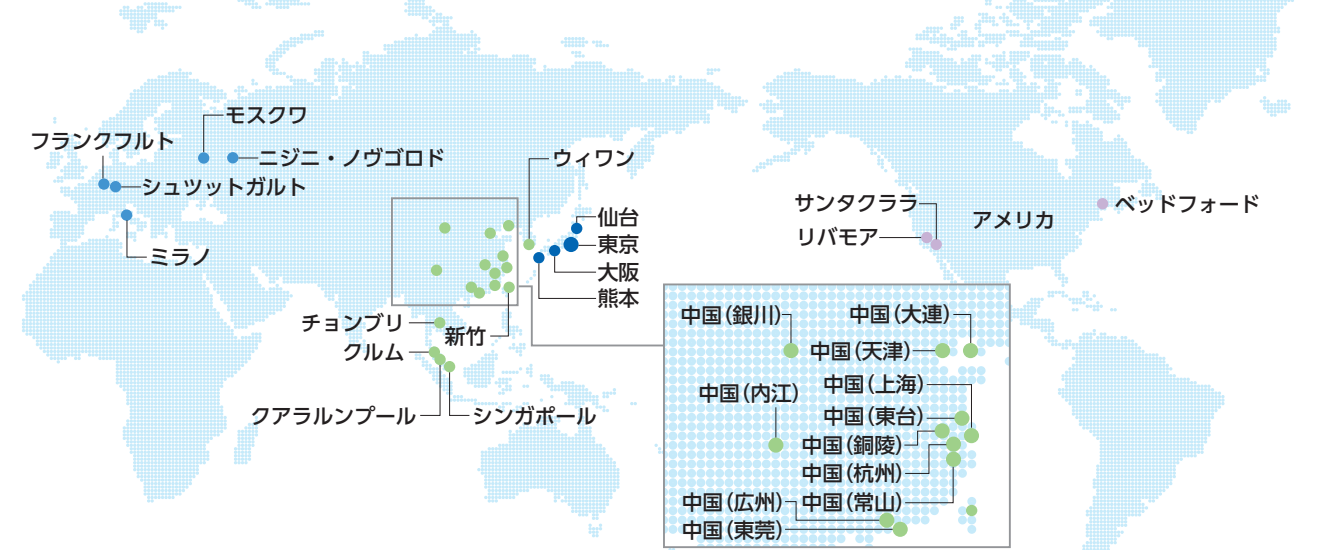
所在地

本社 〒103-0027
東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル5階

役員

取締役	氏名
代表取締役社長	賀 賢 漢
代表取締役副社長	山 村 丈
取締役	並 木 美 代 子
取締役	大 石 純 一 郎
取締役	武 田 明
取締役	宮 永 英 治
社外取締役	柳 澤 邦 昭
社外取締役	岡 田 達 雄
社外取締役	下 岡 郁
監査役	氏名
常勤社外監査役	樋 口 隆 昌
常勤監査役	若 木 啓 男
監査役	吉 田 勝
社外監査役	松 本 拓 生

グローバルネットワーク



欧州

- フランクフルト (ドイツ)
- シュツットガルト (ドイツ)
- モスクワ (ロシア)
- ニジニ・ノヴゴロド (ロシア)
- ミラノ (イタリア)

アジア

- 杭州
- 上海
- 銀川
- 銅陵
- 東莞
- 常山
- 天津
- 大連
- シンガポール
- 新竹 (台湾)
- ウィワン (韓国)
- クアラルンプール (マレーシア)
- クリム (マレーシア)
- チョンブリ (タイ)

日本

- 東京 [本社]
- 千葉
- 兵庫
- 石川
- 岡山
- 神奈川
- 大阪
- 仙台
- 山形
- 埼玉
- 青森
- 宮城
- 熊本

米国

- ベッドフォード
- リバモア
- サンタクララ

販売拠点 生産拠点